

## 1. 新世言「何を忘れ、何を忘れないか」 丸山敏秋 倫理研究所理事長 65歳 (P10~13)

歳を重ねると、よく起きるのが「もの忘れ」です。筆者より20歳も年上の友人である友寄英哲<sup>ともよりひであき</sup>さんは、54歳の時に円周率を4万桁暗記して世界チャンピオンになった。5年前の80歳の時、ルービックキューブ「目隠し部門」で世界最高年齢記録を達成した。そして、「とてもかなわないな」と思うのは、昔からいつお目にかかっても柔和な笑顔を絶やさない。まるで奥義を極めた高僧のように、穏やかに何でも受け入れてくれる微笑みの持ち主なことだ。しかし、何事も水に流して忘れたがる日本人の心理につけ込むかのように、選挙公約を平気で破ってはばからない政治家は後を絶たない。そういう不正義は忘れないようにしましょう。勝手な予測をまき散らし、その通りにならなくて責任をとった評論家やアナリストがいたろうか。いよく覚えておき、信用してはいけない。高齢者をたぶらかす詐欺行為や、言葉の暴力を許してはいけない。忘れること忘れないこと大切な修行です。

## 2. 実践の軌跡「家族7人に支えられ、次男は元気一杯に登校」 矢野香世さん 45歳 石川県 (P14~23)

小学1年の次男は、専門機関の検査で「学習障害」と診断された。近年、通級(軽度の生涯を持つ児童が指導を受ける教室)に通う子供が多く、早く手続きをしないと入れないので申し込んだ。夫に言う「通わせなくていい。家族でフォローをしよう。」困って生活倫理相談を受けました。「ご主人にきちんと相談していますか？」私の実家に父はとても厳しく、男性は女性の意見を聞かないと思いついていましたので、夫に相談していませんでした。後日、夫婦でしっかりと話し合い、夫が子供たちの将来を深い愛情を持って考えていることが分かり、深く反省しました。「通級へは通わせない、大丈夫！」夫婦が心をつなげたことで、次男は見違えました。

**学校の先生が教育の専門家ならば、親は我が子の人生の専門家です。**夫婦が心ひとつに、子供を信じ努力する。

## 3. 実践の軌跡「親に繋がれ、社員と築き上げるスーフカレー店」 高橋秀一さん 49歳 北海道 (P24~33)

昭和50年、私が小学1年生の時、母は父と姉と私を残して出て行きました。それから1年後二人目の母親ができました。生みの母にも、育ての母にも甘えられず心が閉ざされました。こうした境遇の寂しさを紛らわせるために野球に熱中しました。能力はあっても、性格がねじ曲がり人間関係で苦労します。H11年に旅行会社を設立。経営が軌道に乗り、H16年にスーフカレーの店を誕生させますが、人間関係から困窮。H18年3月8日、倫理法人会モーニングセミナーの後、お茶を飲みながら苦しい会社の状況をつい話してしまったら、先輩から「朝起き(目が覚めたらサッと起きること)を百日続けたらいいよ。毎朝5時から開催している「おはよう倫理塾」に参加すれば、人としての器が大きくなり悩みは解決するよ」と言われました。悩む余裕もなく、翌朝、意を決して参加しました。先輩方もいてくれて「まず自分が変わらなければ！」と決意できました。

実践を決意して「万人幸福の葉」を読むと、一言一句が心に刺さりました。特に第13条「反始慎終」。私は3人の親を恨んでいました。しかし、しみじみと思い返すと、大切にしてもらいながら、我が儘放題で申し訳なかったと涙が溢れました。お詫びとお礼の手紙と花束をもって、父と二人の母に会いに行くことを実践しました。

感謝を伝えて数日後、雑誌の取材依頼があり、その後次々とメディアから取材され、10年間で年商が18倍になりました。支え支えられ、縁を得て出会った人と共に生きていく人生こそ、生き甲斐が生まれると確信する。

## 4. 特集「私たちが支える子育て」 子育て中の両親をサポートする「子育てセミナー」各地で開催 (P34~49)

子供は親の深い愛情を受けて、自分は大切な存在なんだと実感し、自信を持ちます。この自己肯定感が、子供を自立させ、目標に向かって生き抜く力になるのです。「三つ子の魂百までも」「小学校に上がる幼児期までが、人格形成に影響する」子供が一步踏み出し、下手でもいいから最後までやり抜いたら褒めてあげれば自信になる。

①腰骨を立てる②挨拶は先手ではっきりと③返事はハイと気持ちよく④立ったら椅子は入れる⑤履物は揃える。育児は育自。子供と一緒に、親である自分も成長。子育て不変の法則「子供は親の鏡である」。親の学びの場です。